

加茂っ子

6月23日(土) 加茂中学校の1・2年生(87名)と加茂地区内4校の小学生(208名)による合同の潮干狩りが行われました。あらかじめ中学生がそれぞれの出身小学校に集り、小学生とバスに同乗し出発、合わせてバス7台の大編成になりました。

目指すは木更津の江川海岸です。予想通り300人の大所帯が来れば辺は一気に賑やかなに。生徒達にこんな大勢で出かけるのは初めての経験で、いつも以上に気が張り上がっていたようです。小中学生が混ざってグループになり、アサリを分け合ったり和やかに協力しながら潮干狩りを満喫していました。

潮干狩り後に小学校の児童達に感想を聞くと、「海は気持ち良かった。大勢だったのでも楽しかった。」「中学生の、お兄さんが面白く話しかけてくれたり、アサリを少しもらったり、優しくしてくれてうれしかった。」「アサリが沢山獲れた。皆でお弁当を食べて楽しかった。また来たいです。」と好評だった様です。

今回の潮干狩りは、小中一貫校実施の



浜辺は加茂っ子の独占状態？



「アサリ、獲ったぞー！」って・・・オオッ！一心不乱な先生の集中力・・・ちょっと怖～い。



僕の近くに
来ちゃダメッ！



ねえ奥さん、晩ご飯はアサリで何にしますっ？

加茂里山通信

かも さとやま つうしん

平成21年夏号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者・編集長 佐久間眞明

加茂米くらぶ

だより

うっとうしい梅雨空の間から時折のぞく太陽が、日ごとに夏の暑さを運んでくる季節となり、山々がすっかり色濃く緑に包まれています。この地を生を受けて五十数年、遠くに見える山々は変わることなく四季を刻んでいます。

先日果嶋のどげみ地蔵に行ってきました。加茂地区においても養老溪谷という観光地があり、外部から多くの人々を迎える土において参考になればと思い、気が付いたことについてちょっと述べたいと思います。

さすがに、おぼーちゃんの原宿と言われるように観光客の殆どは本当にご年配の方ばかりでした。商店街も昔ながらの造りが多く、又、店員さんも五十過ぎの方が多くいました。しかしそのパワフルさには驚くばかりで、つい、いらぬ物で買わされてしまいました。加茂地区のご老人の元気さはご存知の通りですが、改めて老人パワーを感じるところでした。

さて、地蔵通り商店街入口には、たぶん(区)あるいは(郡)の公衆トイレがあり、地方から来られるバスの観光客は、まずここに寄る事になるのですが、あまりのお粗末さに愕然としてしまいました。特に女性の方は不快な思いをされたのではないのでしょうか。観光客を迎える上で何よりトイレは充実しておいてほしいものです。(バスから降りて一番最初に足を踏み入れる場所なので) 養老溪谷においても是非何らかの方法で清潔感のあるトイレを充実してほしいものです。

べつべつ語です。ゴルフ場にて「ナイスショット!」

A (おめーもたまにやー あたっだなー ひさぶりまんまつぐとんだっぺ)

B (きょういちだっぺー だけんなー こっからがおいぬーだよな)

「カキン」

B (なー! あんで 打めでOBうつかなー こっじゃ今日も五十きれねっぺ)

A (そんじやーいつまでたつてん石川遼にやあかなわねーな)

B (そりやーそうと、あんであの受け答えはなかなかできねっぺ、どっかん国のだいきしさんにつめあかでんのんでらいてような)

(台沢里山通信員)

魚屋の戯言

鰻の美味しい季節になりました。

とは言うものの、毎年必ず鰻を食べる人はそう多くはないと思います。我々魚屋で扱う事も少ないですし、和食を出すお店に行っても特別珍しいという程ではないので、よく見かける魚でもあります。ところが京都を始めとする関西地方では大変に珍重され、初夏から盛夏にかけては料理屋さんにもちろんの事、スーパーマーケットにも並ぶほど人気の魚です。

ウナギやアナゴの仲間、それよりも二周り程大で口が大きく裂けていて鋭い歯がびっしりと並んでるばかりでなく、更にその内側に細かい歯を備えていつかなり猛猛な顔つきをしています。鰻という名前も噛むを意味する食む(はむ) から来ていると聞いています。

大変に生命力の強い魚で、その昔まだ現在のように輸送手段が限られていた時代にも遠くまで生きたまま運ぶ事ができました。それが海から離れた京都の市場で頭の部分を切り落とされた鰻がまな板の上で尾を支点として20cmも跳ね上がったのを見て仰天した事があります。

さてこの魚、白身で大変に美味しいのですが残念ながら調理が難しい。身体中に細かい骨が張り巡らされていてそれを処理しない口の中が骨だらけになってとても食べられたものじゃありません。そこで考え出されたのが骨切りという技術です。開いた鰻の身に専用の包丁で切れ目を入れて骨を細かく断ち切るわけですが、なんとその間隔が「ミリ程度!」しかもまな板に接する皮の寸前まで包丁を入れ、皮は繋がったまま残すという大変な技術を要します。しかし完璧に骨切りされた鰻は口の中を舌で探っても手骨が当たらずに鰻の美味しさだけが際立って実に幸せな気分になります。八月が産卵期で、梅雨の頃から急速に旨みが増してくるのに俗に「鰻は梅雨の水を飲んで旨くなる」と言われます。

料理方法は熱湯で湯引きした鰻を牡丹の花のように盛り付け、梅肉で食べる牡丹鰻や天ぷら、蒲焼も美味しいですし照り焼きもまた良し。松茸の時期とも重なる場合があるのでお椀や土瓶蒸しもたまります。

加茂伝説

戸面・夕木の伝説
そら豆を作れない謎

加茂地区には昔から伝わる取り決めや風習、食生活などが地域全体、或いはその家だけの場合など様々あるようです。ここではそれを探ってみましょう。

戸面本台と夕木地区では、そら豆を栽培してはならないという言い伝えが今もたたくに守られていると言っています。ある日、夕木公民館での大奥様達が集まるお茶会に立寄り伺ってみると、公民館の脇にある氏神様(地元では「うちかんさま」と発音している)の紋が「そら豆」だったといわれるからでは?と尋ねました。しかし何処にも紋らしきものは無い。誰も理由は解らず、更に夕木の長老が居られるM家で伺ったがやはり解らず。これは迷宮入りか?とその時、長老から「そら豆は解らんがカボチャは当家では絶対作らな」と言われた。

カボチャ畑は恐ろしい

その昔、M家ではカボチャを作った年には必ず災難や病に遭ったと言います。そして近年の事である。普段御元氣な大奥様が体調を崩し、原因が判らず大変悩まれたそうです。すると敷地内にカボチャが生えていたそう、何処からかばれた種が発芽したのでしょうか。すぐに処分したところ見る見る回復したそうです。おとぎ話の様ですが本当の話です。夕木では他にK家やS家など4〜5軒が同じ言い伝えでカボチャを作らないそうです。長老曰く「想像だがそろまめの件も昔の疫病封じではなかったのでは?」。

しかし食べるのはOKだそうで、その事情を知った人などから立派なそら豆やカボチャが毎年届く様です。めでたかったです。(佐久間里山通信員)

＊「加茂伝説」情報募集中です。

高瀬神社歳時記

夏越(なごし)の大祓い(茅の輪くぐり)

古来より大晦日が新年を迎えるための大切な日であったように、六月晦日も、神に年の前半のあいだの無事を感謝し、収穫までの後半の無事を祈る為の物忌みの日、祓いの日と考えられ大切にしてきました。

昔、宮中では年間を通じて最も大切な正月と七月の相違迎えの行事を前にして国民の罪・穢れを祓い清める「大祓い(おおはらい)」の神事が行われていました。その起源は古く七〇一年制定の「大宝律令」によって定められました。この神事は応仁の乱以降から行われなくなり、したが、江戸時代中期頃に再び行われるようになりました。明治時代になりますと新政府の命により全国の神社で行われるようになり次第に広まってゆき現任に至ります。

夏越しの大祓いでは多くの神社で茅草で作った輪の中を左まわり右まわり左まわりと八の字に通って穢れを祓う「茅の輪くぐり」がおこなわれていますがこれは奈良時代に編纂された「備後国風土記」に書かれた「蘇民将来」の神話が由来となっています。それによりするとあるとき蘇民将来(そみんしょうらい)と巨匠将来(こたししょうらい)の二人の兄弟にみすばらしい男が一夜の宿を頼みに来ました。弟の巨匠将来はお金持ちですが断り、兄の蘇民将来は貧しかったのですが喜んでその男を招き粗末ながら真心を籠めておもてなしをしました。その男は恩返しとして蘇民将来に「茅の輪」を授け、一家の者腰につけるよう言いました。すると村に疫病が流行った時、弟の巨匠将来の一家は死に絶えてしまったのに蘇民将来の一家だけが無事でした。実はその男は疫病除けの神ササノオノミコト(天王様)だったのです。その話により茅の輪は疫病退散、無病息災のシンボルとなったのです。

六月の夏越の祓いをする人は千年の齡延びる言われます。厄災の原因となる罪・穢れを祓い清めるとともに、自らを振り返るための機会として皆さん是非この「夏越しの大祓い」に参加してください。(平田里山通信員)

養老溪谷を暴力団が占拠

この度、養老溪谷旅館組合は当地での暴力団活動を追放するべく、市原警察署と勝浦警察署の協力を得て暴力団排除署名を訴えます。そして7月7日(火)「養老溪谷」旅館組合元」に於いて、市原、勝浦両警察署、市原市観光協会、大多喜町企画商工観光課、養老溪谷観光協会などの関係機関から来賓を招き、「養老溪谷旅館組合暴力団排除署名式」が行われました。宣言文は以下の通りです。

＊暴力団の旅館・ホテル利用を排除する。
＊暴力団による不当な要求は断固拒否する。
＊関係機関との緊密な連携と組員相互の協力体制を確保する。

平成4年に暴力団対策法が施行されて以来、暴力や抗争など目に見える動きは激減していますが、一方、悪徳な金貸しや販売など、一般住民の生活に近い所での活動が増え続けている。警察も万全な体制で臨んでいますが、皆さんも疑わしき要求や脅しには勇気を持って警察に連絡しましょう。

(佐久間里山通信員)

次回秋号は10月20日発行予定です

養老川アユ釣り大会

6月13日(土) 初夏を思わせる天候のなか今年で4回目の開催となる養老川アユ釣り大会が開催されました。主催の養老川漁業協同組合では毎年10万匹のアユの稚魚を放流しておりこの日も太公望たちが釣果を競いました。

今年の参加者は27名。開催ごとに参加も増えていて、大きな観光イベントに発展してほしいものです。

優勝は36匹の彦坂昭宏さん(戸面)。2位小野泰夫さん(山本)。26匹。3位蘭田晃さん(朝生原)。25匹。一番の大家物は牛久の鶴岡和教さんが釣り上げた200cmでした。

型は良好、魚影もますます。今年の夏は期待できそうです。

入賞者には豪華賞品が多数贈られました

素晴しい型と大きさのアユです

里見小PTA団体表彰される

この度、里見小学校PTAが5月16日(土)の市原市PTA連絡協議会定期総会で団体表彰(今回は1団体のみ)されました。

里見小学校PTAは昭和24年に設立され、近年は会員数が減少する中、資源回収や学校環境整備などに組織がよくまとまり、協力しながら運営に当たっています。過去にも地道な資源回収活動に対し、平成16年度には市原市清掃事業功労表彰、平成20年度には千葉県循環型社会形成功労章等表彰を受けています。

その他、子供達の安全を考えた取り組みとして平成17年12月より、児童の下课時刻に合わせてPTA会員が輪番で連日パトロールに当たって3年間続いていました。昨年、学校内では若瀬砂が薄くなり滑りやすくなった校庭に、地域から山砂を提供していただき、PTA会長自ら重機を操り、会員総出で全面に敷き伸ばす作業をし、安全な校庭に生まれ変わりました。

いつの時代でも、子を思いやる強い親心が集まれば、大きな成果となり、幸せな地域社会になって行く良い例でしょう。

(佐久間里山通信員)

2009消防ポンプ操法大会 第3分団が制す!

戦国加茂支部大会

平成21年度加茂支部消防ポンプ操法大会が5月31日(日)に万田野にある昭和村駐車場で開催されました。

各分団とも4月から積み重ねてきた訓練の成果を発揮し、甲乙つけがたい熱戦が展開され、加茂分署職員の厳正な審査の結果、以下の通り成績となりました。

優勝 第3分団(久保、山口、駒込・外部部員)

2位 第7分団(折津・大久保・国本)

3位 第1分団(大戸・平野・万田野)個人表彰

最優秀指揮者 根本正行(3分団)

同1番員 斉藤真一(3分団)

同2番員 鈴木大嗣(7分団) 原田真一郎(1分団)

同3番員 杉田賢公(3分団) 兼岡直行(7分団)

第7分団の3連覇を阻止した第3分団は意気揚々と市の大会に臨みました。

接戦 熱闘の市原市大会

驚異の最速タイムで健闘も僅差の三位

市原市消防操法大会は6月14日(日)に市防災センターで開催されました。優勝は36年ぶりに南総支部となり、2位には姉崎支部。加茂支部第3分団は、タイムは最速の40秒と健闘しましたが僅差の3位という結果になりました。無念…。来年は絶対にはりベシだ!

(大曾根里山通信員)

田であったところが竹林になっているというの
もあちこちに見かけられます。
山の手入れをする人間がどんどん減り、昔ま
んなが入れた山が次第に入りづらくなり、つい
には入れなくなる。昔子供たちは山で遊んで
いたのに、時代が変わり子供の数も減り山で遊ぶ
子供がなくなってくる。かくて、民家に接する生
活の森が人の出入りのある里山の森ではなく、
人を拒むたの森になってしまう。そういう森
が確実に増えていき、昔あった森での生活は消
えていく。

低学年用教室の増築	小学1学年から4学年用の平屋棟を新設。
教室や廊下の改修	床の張替、壁や天井の改修、新しいロッカーや黒板の設置。
階段の改修	3か所の階段を小学校基準へ改築。
トイレ	洋式トイレを加え、手洗い、便器、床、壁等を全て新しく。
昇降口の改修	床や壁を改修し新しい下駄箱を設置。バリアフリー化。
ランチルームの新設	異学年が交流しながら給食できるランチルーム新設。
ふれあいルームの新設	2教室分の広さの多目的教室。異学年の学習活動場所。
小学生用図書室を設置	4小学校の蔵書を集めた小学生用図書室。
保健室拡張	現保健室の拡張。
外壁の再塗装	きれいな外観に再塗装。
グラウンドの全面改修	グラウンドを改修して排水を改良。
体育館の床改修	床の改修。ミニバス用リングや小学生用遊具の取り付け。
プールの一部改修	再塗装。小学生用にコースを一部改修。

【別表】施設整備の内容(案)

加茂の里心を愛する仲間たち

その他のイベントも活発に行われて
います。夏のいち押しは「枝豆・とう
もろこし収穫祭」です。里見駅から高
滝方面に10分程歩いた線路脇の畑
(線路内は絶対に歩かないで下さい)
で体験できます。日程は7月18日
8月9日の土・日・祝日、9時〜15時30分
まで。参加は無料。ただ、収穫量によつて料金
がかかります。とうもろこし1本100円、枝
豆は50cmの紐で縛れる分だけ800円です。
でも何よりも「新鮮さ」が魅力です。是非気軽
にご参加下さい。受付は里見駅960044
(開催日のみ)にて。

里見駅を訪れると「喜動房倶楽部」の名前の
通り、メンバーの皆さんがそれぞれの分担を
「喜びを持って快活、精力的に動いている」の
が良くわかります。その雰囲気土・日に里見
駅に集うお客さんも自然に引き寄せられる様で
す。(佐久間里山通信)

房総・養老深谷の
地酒お土産は
養老深谷駅前
角屋商店
養老深谷観光協会窓口

市原市朝生原181
TEL0436-96-1108
FAX0436-96-0052

その家は
フィンランドの
幸福論から。

HONKA
Today's homes.Naturally.

ホンカ 検索

ホンカ房総 太陽工業株式会社
市原市馬立414-1 Tel 0436-95-5641
www.honka-bouso.com

小中一貫校説明会

小中一貫校開設に向けた説明
会が7月4日(土)に加茂中体
育館で開催されました。
会場に用意された200席を
超える席は、町会関係者をはじ
め、多くの保護者でほとんど埋
まる程となり、関心の高さを伺
わせました。



会場は満席。具体的な内容に
皆の関心も高い

喜動房倶楽部

本郷地区の有志の皆さん11名で活
動されている喜動房倶楽部(松本正雄
代表)は、毎月第1と第3の土・日曜
日に里見駅で軽食、飲物の純喫茶や野
菜の直売などを行ってしています。お勧め
は何と言っても地元グルメの「祭り寿
司」、これを求めるにあわず足を運ぶ
観光客も大勢います。あつあつの焼き
芋も地元の子供達に人気です。

楽器挫折者救済合宿in月出小学校'09

旧月出小学校が平成19年3月に閉
校式をおこなってから3回目の夏を迎
えます。

夏の行事としてお馴染みになった
「楽器挫折者救済合宿in月出小学校
'09」が今年も、8月28日(金)、
29日(土)、30日(日)の3日間
にわたって開催されます。

今年は、これまでになくハイペース
で募集開始後3週間ほどで締め切り
となりました。

30日の午前1時30分からは、
いつも通り発表会をおこないます。参
加者の上達振りを観にぜひ会場へお越
しください。(北 里山通信)

四季を感じる安らぎ空間
ユートピア笠森
宿泊・宴会・グラウンドゴルフ・テニスとゆったりとやすらぎのときを
お祝い・ご法事等の各プランも承っております
(15名様以上無料送迎いたします)
日帰り入浴もご利用出来ます

〒297-0154 千葉県長生郡長南町岩撫5番地
ご予約・お問合せ TEL 0475-46-2381 FAX 0475-46-2250
ホームページ http://www.utopia-kasamori.com

先日、養老地区の小山の中腹にあった古い社
をみんなで取り壊しました。広さ五、六坪程度
の小さいものでしたが、岩山を削って平地を造
りそこに建てたものでした。割としっかりした
ものでしたが周りの木々や篠竹等が鬱蒼茂り、
風も通らず湿気にとられて一部の屋根が落ちて
しまい老朽化したために取り壊すことになった
ものです。しかし取り壊した材を見るとそれほ
どに古いものではなく、湿気にとられなければ
そのままの形を残せたであろうと思われました。
下草刈りをして篠竹を切って風を通し、
覆い被さる木の枝を落として多少でも
陽の光が入るように手入れを続けてい
れば、まだまだ十分に機能したであろ
うと思えます。床下からこうろろ出
てきた一升瓶は、一つ二つの世代ま
ではそこに集い、みんなで酒を酌み交
わし、賑やかに過ごしたであろう事を
物語っていました。社の前をふさぐ倒
れかけた木を取り除き、周りに生い茂
る篠竹を切り払うと、中腹から見下ろ
すかなりのいいロケーションにもなりま
す。おそろしく、目のまえに広がる田
んぼや道路や向かいの高滝神社の山な
どを一望できたろうし、上がり口あた
りには桜の古株があるので満開の桜を
見下ろす事もあったでしょう。

里山からの発信

時代の流れと言えはそれまでですが、生活が
一つ消えれば文化も又一つ消えていき、どこか
に何らかの形で記録を残さない限り、
いずれ地域の人々の記憶からも消えて
しまうでしょう。語り伝えていること、
記録していくことは文化を伝えていく
ことで、里山通信でも少しずつ載せて
いければと思います。

毎年夏の終わりに頃には旧月出小で行わ
れている楽器挫折者救済合宿に、実は
昨年「毎日かあさん」こと西原理恵子
さんが仲間の編集者たちと参加してい
ました。この突撃体験記は後に「でき
るかな」シリーズのひとつとして週刊
誌にルポとして掲載されました。それ
はいつものように過激な総論・激しい突
込み、それに所狭しと入れられた文字
でサービスのでんこ感溢れした。「毎
日かあさん」に限らず、彼女の描くも
のはほとんど自分が体験したものをそ
のまま描いているとそれまで思っていました。
しかし、身近に接し話したり、発表会で結構緊
張していたりの様子を見たり、その時と作品に
仕上がったものと比べてみるに、読者を
喜ばせるための誇張や工夫がされていることが
わかりました。プロの作家としていかにしたら
読者を笑わせられるか、いかにしたら読者を喜
ばせることができるのか、そんなことをいつも
考えているんだろうな思っています。漫画に登場す
るイメージとは少し違い、他人に対する細やか
な気遣いをする繊細な人なんだと感じました。
この彼女の書いた最近の作品「この世でいちば
ん大事なこと」の話は大変な傑作で一種の

喜動房倶楽部

本郷地区の有志の皆さん11名で活
動されている喜動房倶楽部(松本正雄
代表)は、毎月第1と第3の土・日曜
日に里見駅で軽食、飲物の純喫茶や野
菜の直売などを行ってしています。お勧め
は何と言っても地元グルメの「祭り寿
司」、これを求めるにあわず足を運ぶ
観光客も大勢います。あつあつの焼き
芋も地元の子供達に人気です。

里山の医療から六

地域医療や産科、救急などを中心に深刻化す
る医師不足に対処するために都道府県は前年度
の倍以上の医師確保事業費を盛り込んだことが
報道されました。住民の命に関わる医師不足解
消に向けて各自自治体が専任の部署や職員を配置
し、あの手この手で医師獲得に奔走しています。
しかし、医師の偏在もあるものの絶対数が不足
している中では、限られたパイの奪い合いと、
限界を指摘する声もあります。今のこのような
事態になるであろうことは、すでに何年も前か
ら自治体関係者には見えていたのではないかと
思えます。今になって確保のために予算を倍額

全国屈指のガンマナ
イフやヘリポートが
ある千葉県循環器病
センター

これらのことを考えると約束事をきちんと守
てほしいと要望するのは当然のことと思えます。
(矢次里山通信)

哲学書になっています。この本の中のある話が
思い起されることがありました。
商工議所の観光部会の主催で「市内高校進路
担当」観光部会との懇談会というのがありま
した。要は就職指導の先生方と市内ゴルフ場の
関係者の方たちの生徒の就職に関する懇談会
でした。話が生活の基本的な生活習慣やモラル
といった点に及んだとき、ある先生がこう述べ
たのです。「そういうことを今の生徒たちに求め
ても無理です。大人たちがみんな足をひっぱっ
ているんですから。本来家庭で身につけるべき
基本的な生活習慣を学校現場に求められても無
理で、給食費を払わないで平気であるような親
たちがいる時代です」彼女の言葉の中にはう
るうも、根つこうは同じじゃないかと思う。
金はあるんだけど、払いたくない。『その何
が悪いって言うの?』って態度だよね、あれも
ね。大人がそういう態度だと、子供だって勘違
いしちゃう。「損しない」ってことが一番大事
みたいにいるっちゃう。「自分だけお金を払わな
い」ってことに何の疑問も感じないこともには、
そういう大人の不健全なお金に対する態度が反
映されているんじゃないか。

「自分のやりたいこと
がわからない」とい
うことに関しても、「カ
ネ」という視座を持ち
、「カネとストレス」、
「カネとやりがい」の
真ん中に自分にとっ
ての「バランス」がい
いところを探してい
ようかと提案し、そ
れでも、「仕事や働くこと」に対するイメージ
がぼんやりするようならば「人に喜ばれる」とい
う視点で考えるといいいのではないかと述べて
います。さらに「自分が稼いだこの『カネ』は誰
かに喜んでもらったことの報酬なんだ。そう実
感することができたら、それはきっと一生の仕
事になって、できると思っ」と続けています。
中島みゆきの歌「ファイア」の中の「一節」フ

にするのではなく、そのお金を長期の医師の育
成に使うような先を読んだ使い方に向けていた
らもっと有効だったのでは思います。
鶴舞活性化ネットワーク病院部の部長の濱屋
さんからはいつもいろいろな資料を提供してい
たにいてるのですが、先にいたいたいたのもの
中に興味を惹かれたものがありました。それは
千葉県知事に提出したお願いの中の要請事項に
盛り込まれた鶴舞病院の歴史的風景です。
昭和二十七年、千葉県は鶴舞町に結核病院の開
設を計画したものの住民の反対を受け地域医療
を併せ持つ鶴舞病院として再提案をし、住民の
了解を得たこと。鶴舞住民は病院建設に関し全
面的に協力し、用地である山林の伐採・整地な
どを勤労奉仕として行ったこと。平成六年。循
環器病センター開設については、高度医療の開
院と地域医療の充実を目的に協定が結ばれ、市
原市はこのために千葉県に対して一・二四ヘク
タールの土地を病院用地として無償提供してい
ること。平成二〇年。循環器病センターは「循環
器疾患におけるセンター病院としての機能と、
地域の医療としての機能を併せ持つ施設」と
千葉県病院局中期経営計画に定められているこ
と。

喜動房倶楽部

本郷地区の有志の皆さん11名で活
動されている喜動房倶楽部(松本正雄
代表)は、毎月第1と第3の土・日曜
日に里見駅で軽食、飲物の純喫茶や野
菜の直売などを行ってしています。お勧め
は何と言っても地元グルメの「祭り寿
司」、これを求めるにあわず足を運ぶ
観光客も大勢います。あつあつの焼き
芋も地元の子供達に人気です。

四季を感じる安らぎ空間
ユートピア笠森
宿泊・宴会・グラウンドゴルフ・テニスとゆったりとやすらぎのときを
お祝い・ご法事等の各プランも承っております
(15名様以上無料送迎いたします)
日帰り入浴もご利用出来ます

〒297-0154 千葉県長生郡長南町岩撫5番地
ご予約・お問合せ TEL 0475-46-2381 FAX 0475-46-2250
ホームページ http://www.utopia-kasamori.com